

日本の組織の縦と横

赤谷慶子

日本の組織の縦割りいと効率よく機能するは久しく認識せられたり。横の意思疎通の脆弱なるは一九九八年の長野冬季五輪大会により十分経験済なり。今回コロナ禍の最中、霜月に世田谷区より品川区に家移りせり。三回目のワクチン接種の逼迫せるに今住居を變へたればいかなる影響及ぼすや若干心もとなけれど、師走に品川区保健所より郵送せられたる通知はおのれの不安の中せる事の證あかしとなりけり。その通知は「接種履歴確認のお知らせ」といふものにて、令和三年師走三日時點に新型コロナウイルス豫防接種の二回目の履歴品川区にて見定められぬ人への案内なりき。「何らかの理由にて區に接種履歴登録せられたらざる可能性あり、記録の追加もしくは訂正の申し立てをせられよと明記せり。申し立てなくんば三回目の接種券發行する能はざれば、遲滞なく申し立てすべしと案内せり。加へ三回目の接種券は二回目より八カ月経過後の接種に間に合はすべく發送せむとの由。即刻世田谷区にて接種せる「臨時證明」複製し申し立て用紙を郵送せり。

接種券は睦月の二十四日に我家に到れり。二回目の接種と三回目の接種間隔八カ月を六カ月にすと報道せらるれど、電網にて豫約を取らむとも「間隔短し」といふ文言出現し豫約蹴られて竟まはんぬ。已むを得ずして、繋がらぬ電話幾度とかけ直し、八か月の間隔なくば豫約入るるを得ずやと苦言申し立つれば、明日より改善せらるべけれど、まづは電話にて豫約を承るといふ。モデルナもしくはファイザーのいづかたを選択すやとの質問を受く。二回目接種までファイザーなれば、ファイザーの方よからむと回答すれども、醫療従事者優先順位高くおほかたの会場埋まれり。空けるところいづこなりと差支へなしと言へば、彌生九日に大井町の比較的大いなる病院に豫約入りき。可能ならば如月に接種せまほしければ、來週再度電網に挑まむと思ふ。二回目の際も、あるいは自衛隊の会場など、數度豫約の變更をして、比較的早く接種するを得たれば此度も試みむ。同じ東京都にも區異ならば記録は無きに等しいふ事に、コロナだにゆゆしきに、なほ深刻なる事態にならばいかならむかと不安を抱くはえ否まず。

(令和四年一月六日受附)